

## 高山・市民の森 森林教室 実施報告書

### 「くん製と花炭作り」

- 1 日時 平成27年10月11日 10時～14時
- 2 参加講師 森林インストラクター  
担当： 大石 上妻  
アシスト： 青野 内野 越智 小嶋 杉山 高橋 早川 矢下
- 3 参加者 45名 (15家族 大人 28名 子供 17名)
- 4 概要

あいにく前線が北上して前日の夕方から雨が降りはじめ、小雨ながら午後まで降り続けました。天候が悪かったこともあり、当初20家族60名の参加予定でしたが、5家族のキャンセルが発生しました。午前に予定した散策を午後に変更して、くん製と花炭作りを「森の恵み」付近の雨のかからない、建屋の床下のスペースおよび屋根のある木材を切断するところにおのおの場所をとり、くん製作、花炭作りを開始しました。12時になっても、くん製作の方はまだ煙が出ていたが、切り上げて、昼食のおかずになりました。希望者には昼食をとりながら、くん製作を継続してもらいました。午後になっても小雨はやまなかったため、13時から散策希望者についてのみ雨の中を散策してもらい、他の人には帰途についてももらいました。

#### (1) くん製作

1家族に1台のダンボール製の燻製器を支給しました。アルミ箔を敷きその上の木の上に置かれた小さな金網の上でスモークウッドに火をつけて煙を出しくん製作を開始しました。共通食材として、ウインナー、はんぺん、チーズ等を支給させてもらったが、各家庭からは、ゆで卵、さらには大きな肉の塊を持ち込まれ、くん製作に対しての強い意欲が感じられました。10時から準備を開始しましたが、着火に多少時間がかかったこともありまだ煙が残っていたが、12時に切り上げて昼食のおかずとして楽しみました。ほんのり色が付いた出来上がり品を見て、よくできたと喜んでくれました。また使ったダンボール燻製器は大半の家庭で持ち帰ってくれました。

#### (2) 花炭作り

事前に森林インストラクターが多数の花炭の素材を集めました。各種ドン

グリ、モミジバフウの実、トチの実などの秋の森で採取できる木の実が山盛りに机の上に並べられました。

参加者には、好みの材料を選んでもらい、中にアルミ箔を敷いた鉄箱に入れ込み缶ごとに焚火で10～15分程蒸し焼きしました。その後缶が適度に冷えた時を見計らい蓋を慎重に開けた瞬間、あちこちで「あっきれい」と感嘆の声が上がりました。出来た黒い花炭をそれぞれ大事そうに袋に詰め「何処に飾ろうかな」と嬉しそうに帰路につきました。

### (3) 森の散策

雨が上がり切らず、足元も悪いため、希望者だけの散策となり2家族と共に管理道を散策しました。まず目に入ったのはオトコエシ。花がまだ残っており、果実も同時に見られました。薄い膜状の翼の付いた種子は、風を利用して散布されます。次のイノコズチの種子は、動物や人の服にくっついて分布を広げ、ゲンノショウコは自らはじけて種子を飛ばすなど、植物の種の散布の仕方の面白さを話しました。白いキノコを見つけて毒があることや鹿の食痕を確認し、シカやカモシカが高山に棲んでいることも話しました。そして高山に特徴的に多く生育するセンブリの花を見つけ、ゲンノショウコやヒカゲノカズラとともに薬効や利用について解説しました。帰りがてら、子供たちと傍らに生えているオオバコの茎を絡み合わせて「勝ったー」「やったー」とオオバコ相撲で遊びながら楽しく元気に歩いて戻ってきました。戻ってきた頃には、雨が上っていました。



雨が降らない場所で、くん製と花炭作りをしました。



ダンボール製の燻製器で燻製をつくりました



鉄箱に花炭の素材を入れて炉の火で蒸しました。



おもしろい花炭が出来ました。



「森の恵」でお昼を楽しみました。



自分たちで作ったくん製はとてもおいしい！！



午後まだ小雨が降っていましたが、散策を楽しみました。